



2019年4月

株式会社三井住友銀行 CA本部 企業調査部

ニューヨーク駐在 瀧 雄介

■ 活況を呈する米国ベンチャー投資と今後の注目点

米国のベンチャー企業向け投資は、長期にわたる金融緩和によるベンチャーキャピタル（以下、VC）の投資余力拡大や、大企業等が独自に設立・運営するコーポレートVC（以下、CVC）の投資活発化などを背景に、活況を呈していますが、未上場ながら想定企業価値が10億米ドルを超えるユニコーン企業など一部に投資が集中していることもあり、今後の動向に注目が集まっています。

米国ベンチャー投資額は過去最大に

2018年の米国のベンチャー企業向け投資は、投資件数では8,948件と前年比5.7%減となりましたが、投資総額は、前年比58%増の1,309億米ドルとなり、過去ピークであったドットコムバブル期の2000年の水準を上回り過去最大となりました。

この背景として、第1には、金融危機以降長らく続いている世界的な低金利や量的緩和に伴って、従前からベンチャー投資を担ってきた専門VCの資金調達額が過去最大となるなか、投資資金が一定程度まで事業規模が成長しているレイターステージ企業へと集中し、こうした先に対する評価（バリュエーション）の高まりやロットの大きな投資の増加がみられたことがあげられます。

なかでも、事業の将来性や革新性が有望視される米国ユニコーン企業は、足元で156社と過去最多を更新しており、その累計調達額は、2018年には前年比約2倍となる154億米ドルにのぼるなど、ベ

ンチャー投資拡大の牽引役となっています。

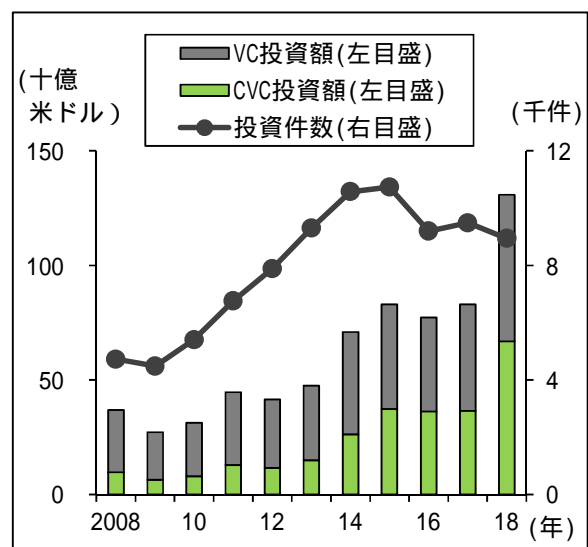
CVCによる投資が活発化

第2の背景として、CVCによる投資が2018年には、前年比1.8倍となる668億米ドルまで増加し、ベンチャー投資総額の5割超にまで拡大したこともあげられます。

世界的に、大企業を中心として、次世代技術や新サービスの獲得に向けてベンチャー企業との協業を進める動きが活発化しており、なかでも投資を絡めた連携を模索する企業では、機動的な投資先選定や迅速な意思決定、効率的な投資管理のため、CVCを設立・活用する事例が増加しています。

業種別にみれば、電機やIT、通信業界

図表1 米ベンチャー投資額・件数推移



(資料) PitchBook を基に弊社作成 (19年2月)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的な手段を問わず、無断での複製または転送等を禁じております。



などのテクノロジー関連企業によるもののみならず、2018年には、創薬ベンチャー等に期待を寄せるヘルスケア企業、フィンテックベンチャーとの連携を図る金融機関などによるCVC投資の活発化がみられました。

2019年の注目点

米国ベンチャー投資動向の今後の注目点として、まずVCについては、金融市場において量的緩和の段階的な縮小は続くものの、2019年に入って政策金利の継続的な利上げは小休止に転じており、引き続き、旺盛に投資資金を集めていくものとみられます。

こうしたなか、2019年には、米国ユニコーン企業のなかでもとくに評価が高く、想定時価総額が100億米ドルを超える4社の新規上場が予定されており、上場時に株式市場からこれまで同様の高評価を得られるか否かが、VCなどのベンチャー投資家の評価の妥当性や投資回収の成否を検証する材料となり、今後のベンチャー投資動向をうらなうポイントになるとみられています。

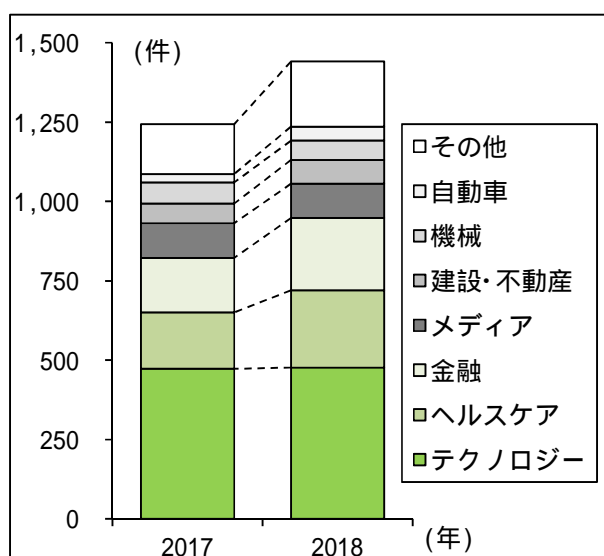
次に、CVCについては、昨年8月に米中摩擦の激化を背景として、対米外国投資委員会（CFIUS）の権限が強化され、外国企業への対米投資の審査基準が厳格化されて以降、外国企業による対米投資マインドの後退を懸念する向きもみられましたが、2019年2月までの状況をもと、全体の1割弱を占める中国企業のCVC投資はやや鈍化しているものの、

中国以外の外国企業のCVC投資は引き続き堅調に推移しています。

さらに足元では、自動車や機械関連企業が、CVCを通じて、人工知能やIoT（Internet of Things）関連のベンチャー企業に対する投資を加速化させているほか、Eコマースやウェブマーケティング関連企業との連携を模索する小売業界、新素材開発を進める先への投資を進める素材・化学業界などでもCVCの設立や投資の事例が増えており、投資企業の裾野の広がりが、CVC投資の拡大につながっています。

日系企業のなかにも、事業のイノベーションに向けて、VCへの出資やCVCを通じた投資により、米国のベンチャー企業との協業を図ろうとする先が増えていくなか、今後の米国のベンチャー投資動向が注目されます。（瀧）

図表2 業種別CVC投資件数



(資料) CB Insights を基に弊行作成(19年2月)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊行が一般に信頼できるとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を弊行で保証する性格のものではありません。また、本資料の情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。ご利用に際しては、お客さまご自身の判断にてお取扱いいただきますようお願い致します。本資料の一部または全部を、電子的または機械的手段を問わず、無断での複製または転送等することを禁じております。